

はじめに

今、私たちの身の回りにはテレビや新聞・雑誌・インターネット等を通して、統計資料や調査データから作成されたグラフや表に基づくたくさんの情報が手軽に入手できます。とくに、政府や地方自治体による公的統計を始め、種々のデータが公開されるようになってきた現在、情報をどのような状況で活用するのか、情報の内容と質を見極めながら、私たち一人ひとりが正しい判断や価値選択を行う能力を身につけることが期待されています。

また、21世紀の社会は、「人口問題」や「環境問題」など、社会経済・自然現象の両面に渡って、未来がどうなるのか予測がつかない、不確実性が増大している社会です。このような社会では、確かな統計データに基づいて不確実性を科学的に分析し、その結果をエビデンスとして社会課題に論理的に取り組む、思考力や判断力、いわゆるデータサイエンス力の高い人が求められています。

そのため、学校では、自分で見出した具体的な課題を探究する「総合的な学習の時間」が設けられています。

しかし、「総合的な学習の時間」をどのように充実させればよいのか、その方法が分からず困っていませんか？

探究的な学習では、

身の回りでいま何が起きているのか？

それが私たちの日常の暮らしや未来への判断にどのように影響するのか？

よりよい暮らしや社会を実現するために、いま何をすべきなのか？

をできるだけ客観的な統計資料を提示しながら、効果的に表現し伝えることが大切になります。もちろん、テーマは、社会的なことに限らず、スポーツや自然環境、将来の進路や趣味にいたる幅広い対象を自由に選ぶことができます。ただし、何を対象としても、主張や判断が統計的な分析結果によって導かれた科学的なエビデンスに基づいているということが重要です。

本書は、既に、中学生以上の生徒のみなさんを対象に刊行している、探究的な学習の取り組み方を学ぶ学習ワークブック（基礎編）に続く上級編として編集されたものです。基礎編にはない実践的な事例を通して、統計的探究プロセスの流れや統計分析を行う上での理論的な背景も理解できる構成になっています。

本書を通して、みなさんの統計・データサイエンス活用能力が更に向上し、探究的な学習や課題研究がスムーズにできるようになれば幸いです。

平成29年3月

総務省政策統括官（統計基準担当）

新井 豊